

NAGASE



2010年(平成22年)3月期 決算説明会

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

2010年5月21日

◆ 目 次 ◆

- * 2010年3月期の決算概況
- * 2011年3月期業績見通し
および中期経営計画「*CHANGE* 11」進捗
- * ナガセアプリケーションワークショップの取組みについて

2010年3月期の決算概況

- 売上高は、需要回復の遅れと円高の影響で大幅減収となるが、コスト削減等で営業増益を確保
- ナガセケムテックスの高付加価値商品の伸長により、売上総利益率向上。

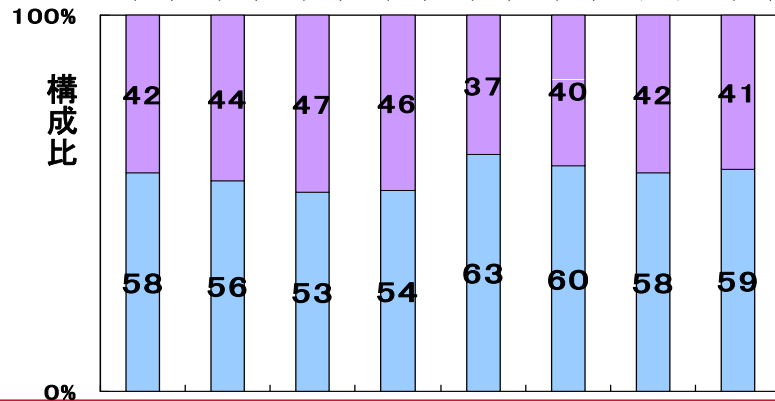
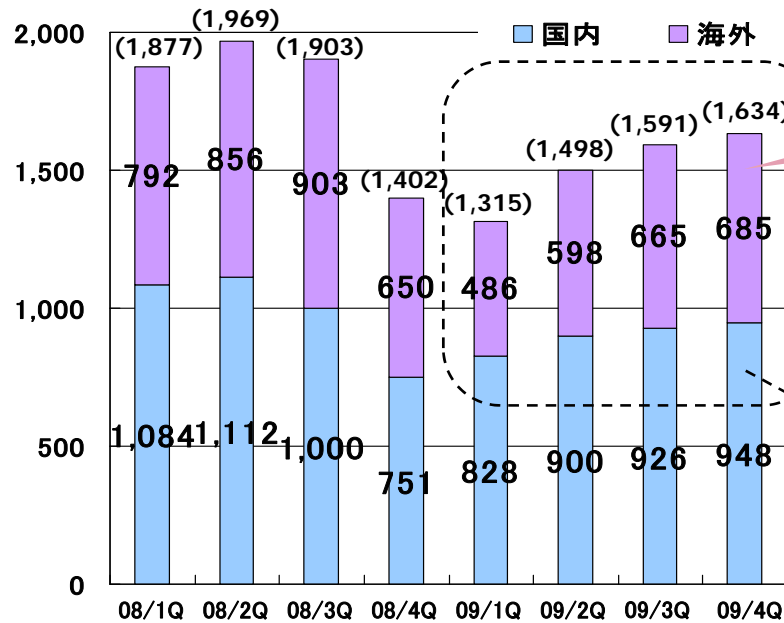
(単位:億円)

	10/03	09/03	増減	前期比
売上高	6,039	7,152	▲1,112	84%
売上総利益 (利益率)	654 (10.8%)	715 (10.0%)	▲61	91%
販売管理費	▲522	▲590	+67	89%
営業利益	131	125	+6	105%
経常利益	147	130	+16	113%
当期純利益	75	58	+17	130%
1株当たり当期純利益	58円64銭	45円17銭	—	—

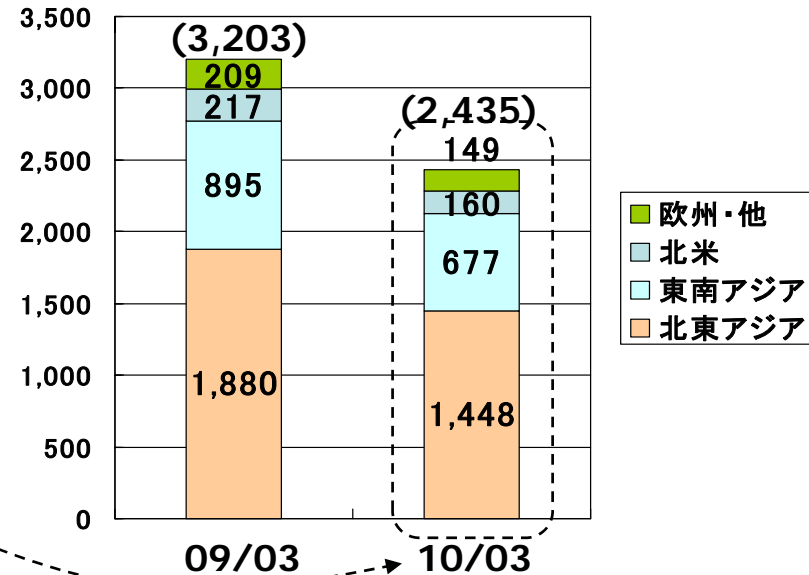
前期比1,112億円減少(上期:▲1,032億円,下期:▲80億円)

国内344億円減(上期:▲467億円,下期:+123億円)

海外767億円減(上期:▲564億円、下期:▲203億円)



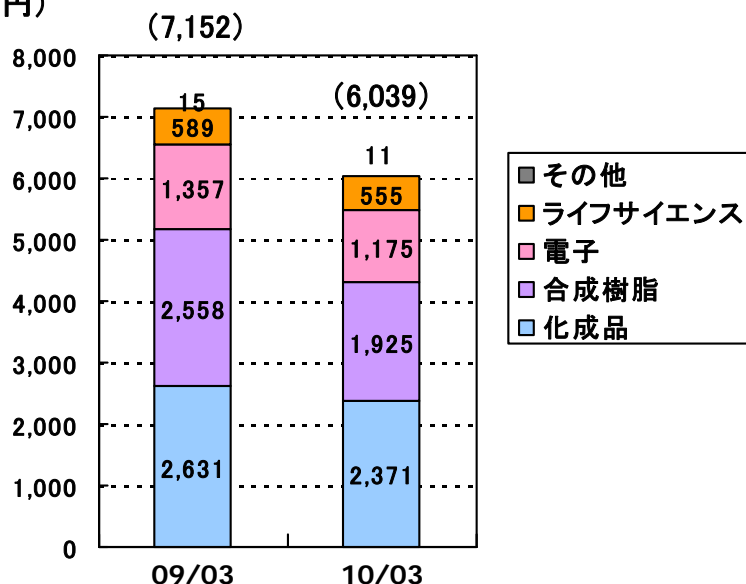
海外売上の地域別内訳(前期比)



— 海外売上比率が減少 (44.8%→40.3%) —

- 海外連結子会社の売上減少のピークである09年1～3月の業績が、10年3月期の第1Qとして計上 (現地は12月決算のため)
- グレーターチャイナは自動車関連を除く合成樹脂セグメント (OA・電子機器関連) が大幅売上減少。華南地区・電子セグメントの加工組立ビジネスも大幅減収。
- アセアンの売上減少著しく、化成品・合成樹脂にて大幅減少。

(単位:億円)



セグメント別の売上概況

化粧品 2,371億円 ▲ 259億円 (90%)

(上期: ▲390億円、下期: +131億円)

- 化粧品業界全体の需要が回復基調で推移
- ナガセケムテックス(株)製品の販売は増加
- 通期では前年度の水準まで戻らず、全体としては売上減少

合成樹脂 1,925億円 ▲ 632億円 (75%)

(上期: ▲499億円、下期: ▲133億円)

- 中国向けを中心に下期には需要の回復が見られた
- 全ての地域で前期の水準に戻らず、全体として売上が大幅に減少

電子 1,175億円 ▲ 181億円 (87%)

(上期: ▲125億円、下期: ▲56億円)

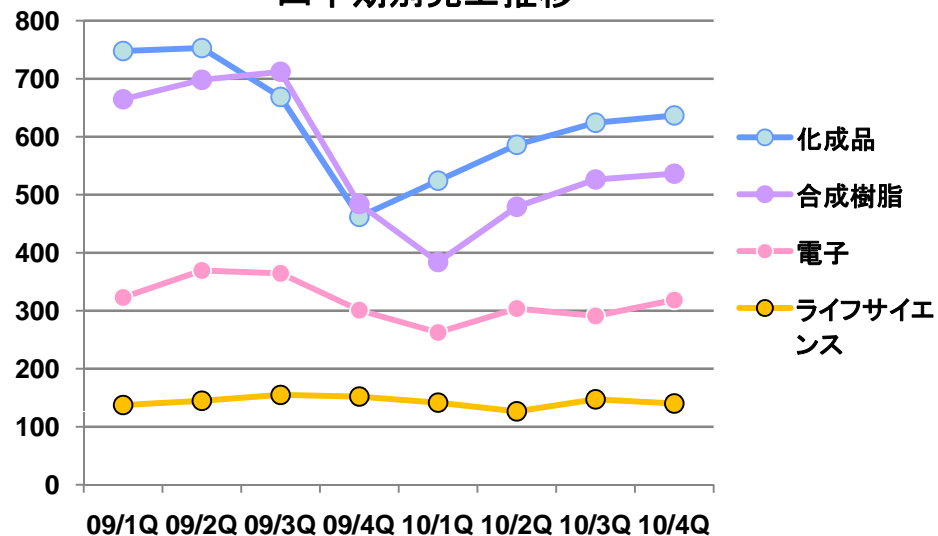
- 液晶関連等一部の業界は需要回復
- 特に海外において、前期後半からの不況の影響が大

ライフサイエンス 555億円 ▲33億円 (94%)

(上期: ▲14億円、下期: ▲19億円)

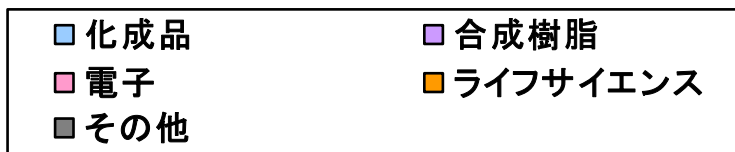
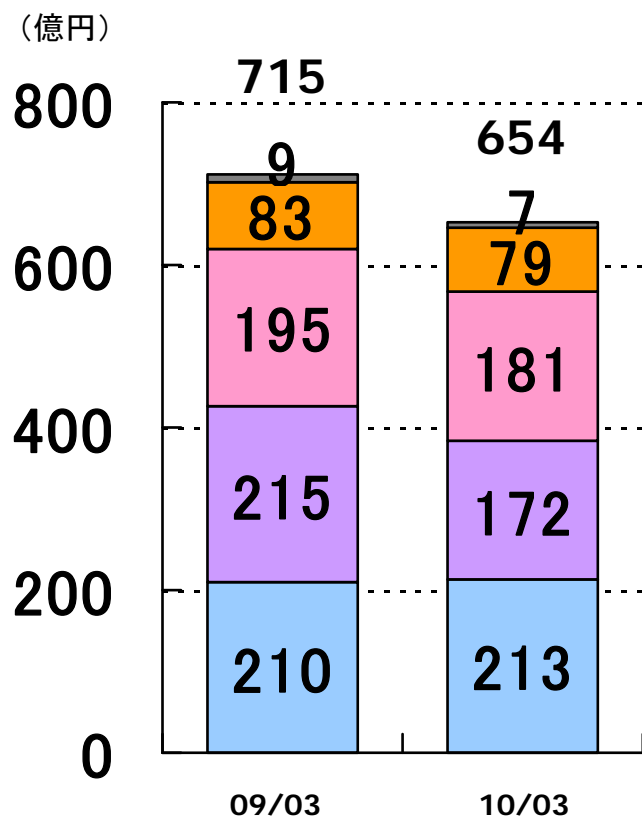
- 化粧品・健康食品の販売を行うビューティケア事業の売上は微減
- 医薬品原料・中間体関連などは減少
- 農薬原料、発酵生産物関連は微減

四半期別売上推移



654億円 61億円減少 前期比 91%

(上期: ▲84億円、下期: +23億円)



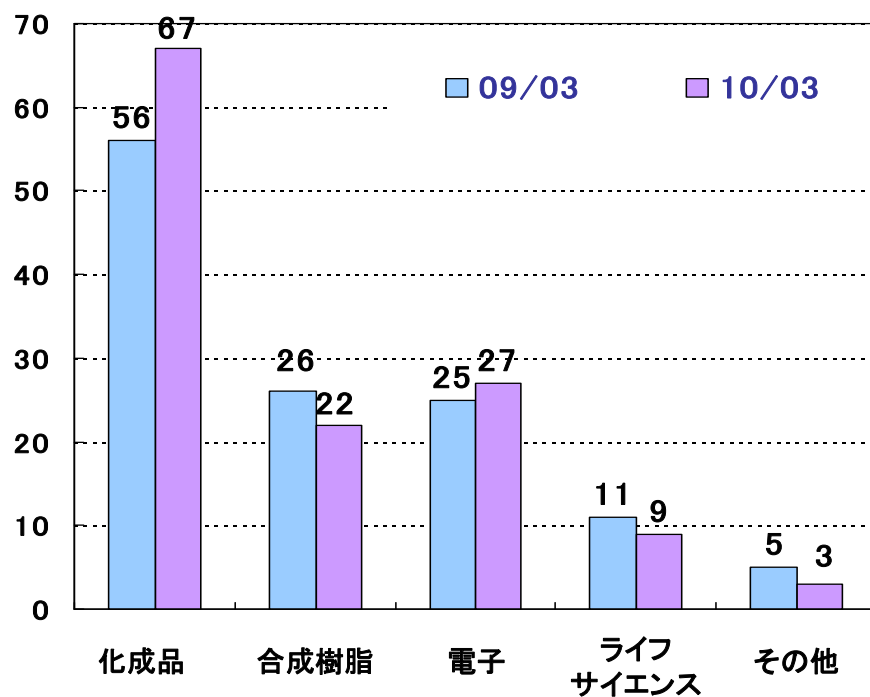
セグメント別 売上総利益 (前期比)

化粧品	+ 2億円 (101%) (上期: ▲21億円、下期: +23億円)
合成樹脂	▲ 43億円 (80%) (上期: ▲37億円、下期: ▲6億円)
電子	▲ 14億円 (93%) (上期: ▲26億円、下期: +12億円)
ライフサイエンス	▲ 3億円 (96%) (上期: 0億円、下期: ▲3億円)

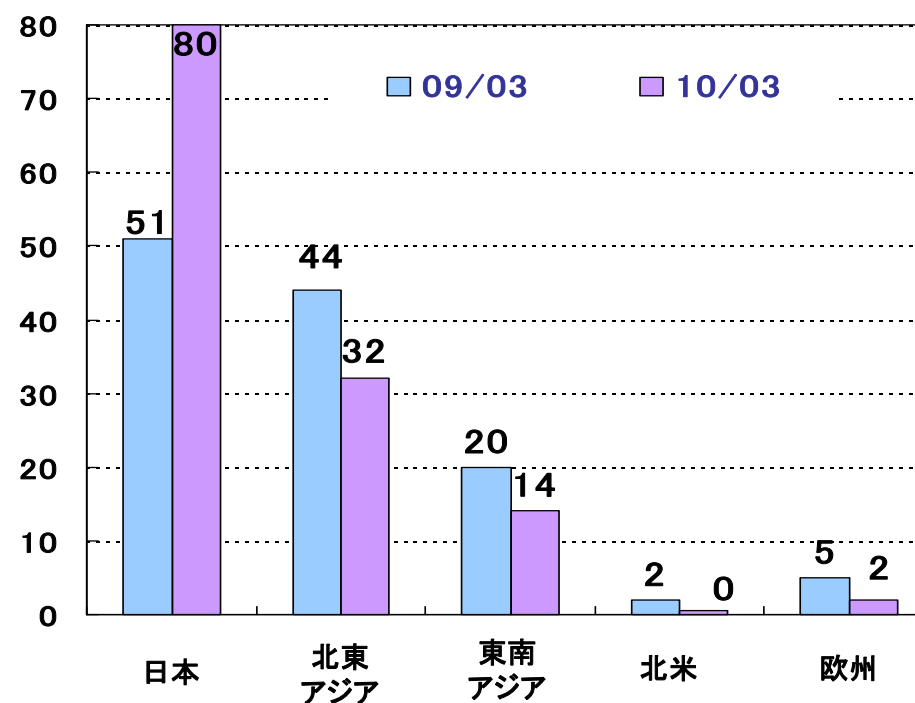
131億円 6億円増加 前期比105%

(上期:▲36億円、下期:+42億円)

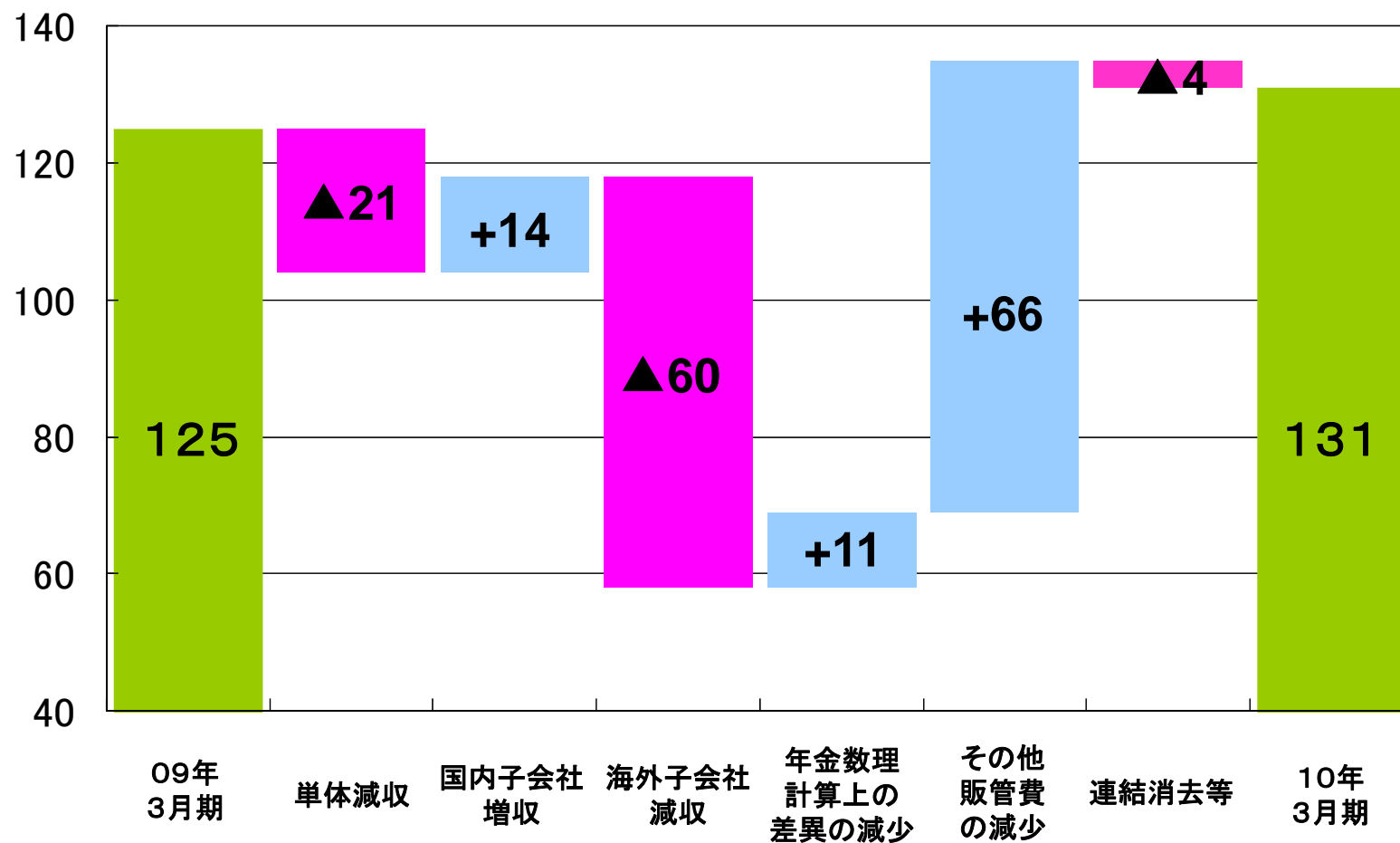
＜セグメント別 営業利益＞



＜所在地別 営業利益＞

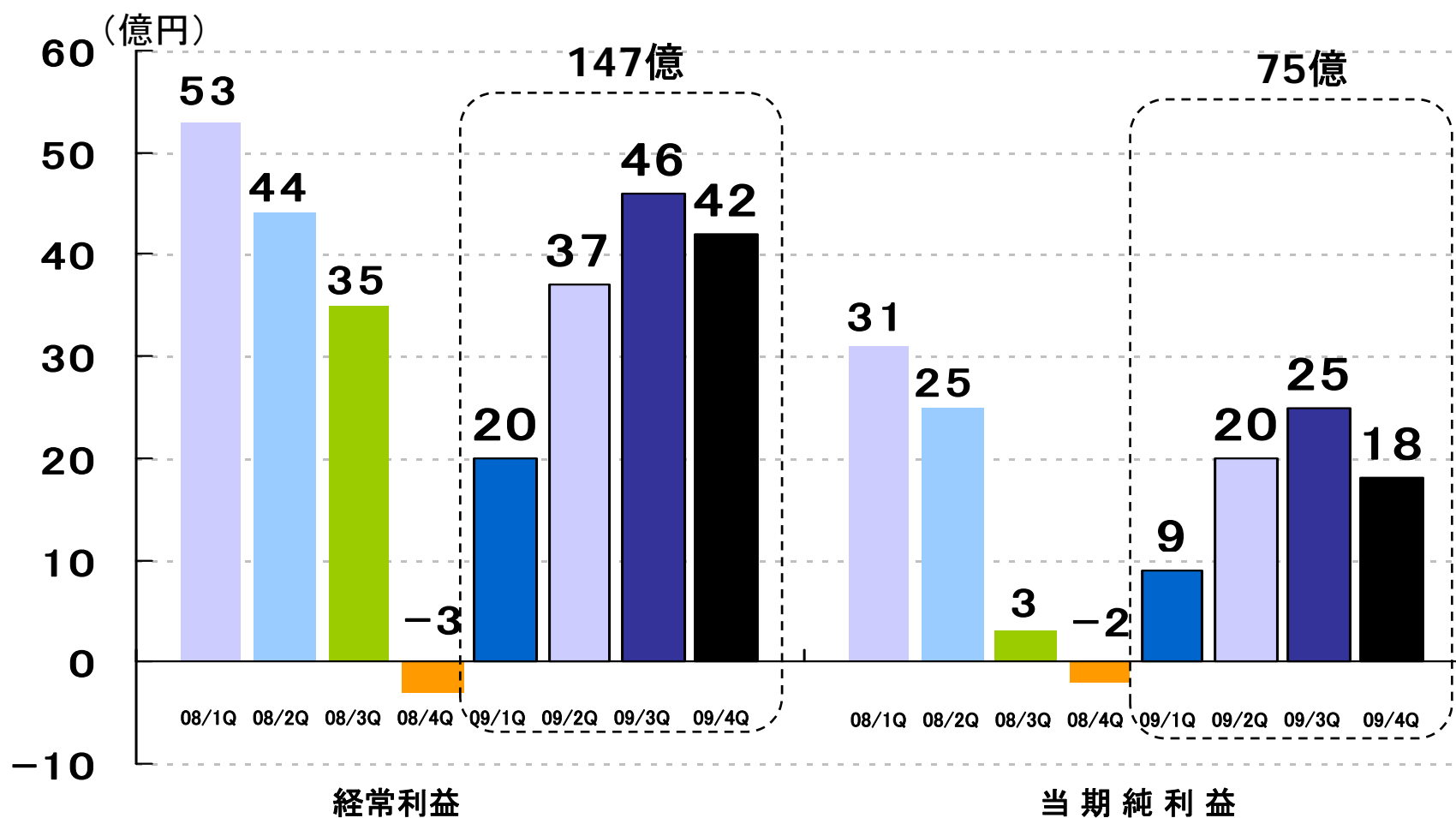


(億円)



◆ 經常利益：147億円 16億円増加 前期比113%

◆ 当期純利益：75億円 17億円増加 前期比130%



- 運転資金減少(売上債権増加するも仕入債務増加・在庫減少が大きく、全体は減少)
- 投資有価証券の増加(株価上昇に伴う時価評価額の増加)
- 有形固定資産の増加

(単位:億円)

《資産》	10/03	09/03	増減	《負債及び純資産》	10/03	09/03	増減
現金及び預金	428	261	+ 166	支払手形及び買掛金	1,086	900	+ 186
受取手形及び売掛金	1,869	1,663	+ 206	短期借入金	104	198	▲ 94
有価証券(譲渡性預金)	—	100	▲100	その他流動負債	180	163	▲16
棚卸資産	310	400	▲ 90	長期借入金	111	110	+ 0
その他流動資産	69	65	+ 3	退職給付引当金	68	68	▲ 0
有形固定資産	403	392	+ 11	その他固定負債	103	48	+ 54
無形固定資産	25	27	▲ 2	株主資本	1,855	1,826	+ 29
投資有価証券	536	435	+ 101	(うち自己株式)	(▲ 54)	(▲ 53)	(▲ 0)
その他固定資産	37	62	▲ 24	評価・換算差額等	97	19	+ 77
				新株予約権	2	2	—
				少数株主持分	71	70	+ 0
				(自己資本比率)	(53.1%)	(54.1%)	(▲1.0%)
資産合計	3,680	3,409	+ 271	負債及び純資産合計	3,680	3,409	+ 271

税金等調整前利益、運転資金の減少により、営業キャッシュ・フローは278億円の収入
有形固定資産、投資有価証券の取得に伴い、投資活動によるキャッシュ・フローは94億円の支出

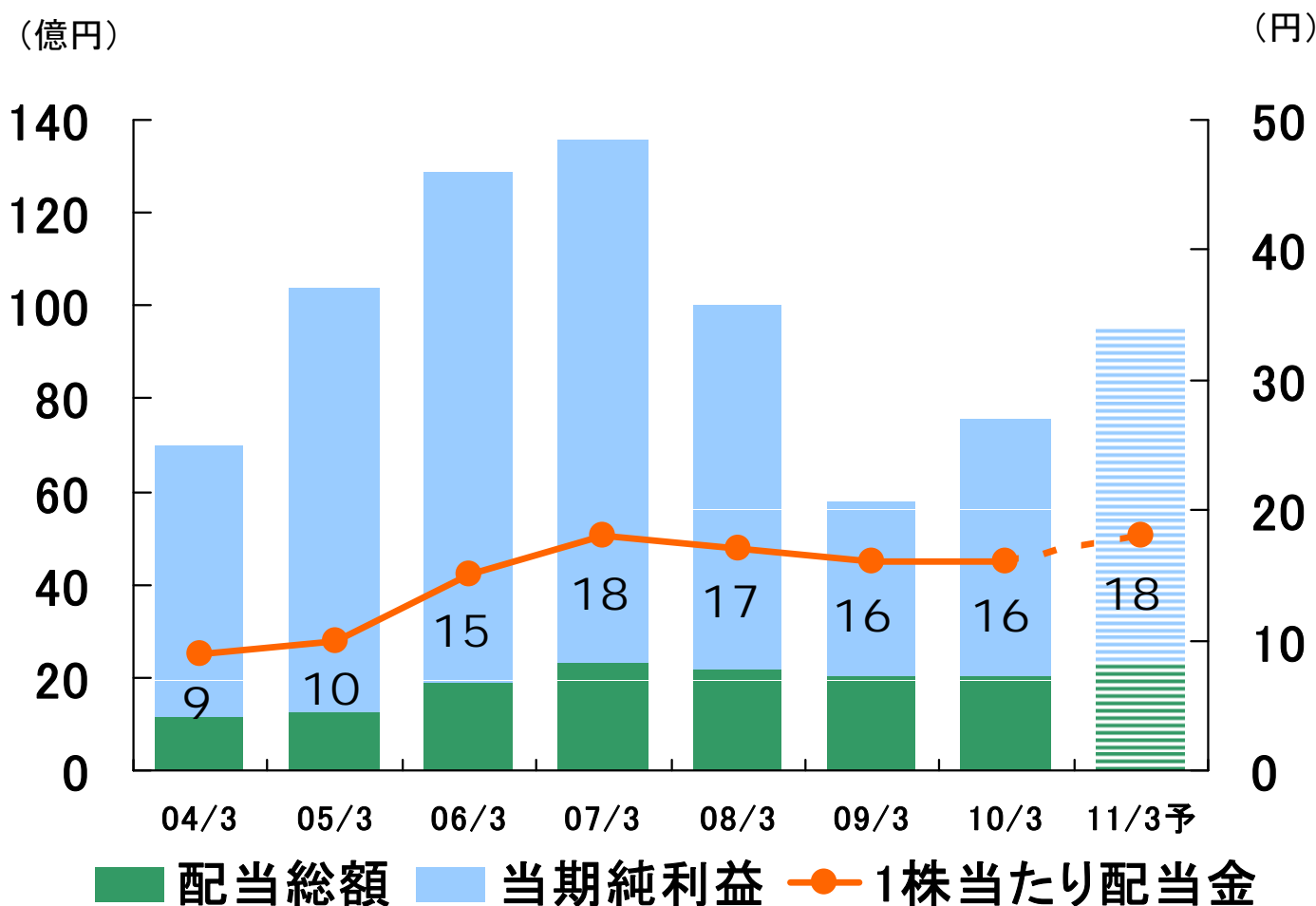
(単位:億円)

	10/03	主な内訳	09/03
営業活動による キャッシュ・フロー	+278	税前利益 135億円 減価償却費 59億円 運転資金 77億円 法人税等の支払額 ▲33億円 等	+361
投資活動による キャッシュ・フロー	▲94	有形固定資産の取得 ▲65億円 投資有価証券の取得 ▲33億円 無形固定資産の取得 ▲6億円 等	▲110
財務活動による キャッシュ・フロー	▲117	短期借入金 ▲96億円 配当金の支払 ▲19億円 等	▲55
現金及び 現金同等物の増減	+66		+126
現金及び 現金同等物の期末残高	428		361

(単位:百万円)

	社名	売上高	前期比	営業利益	前期比	当期純利益	前期比
単体	長瀬産業	414,657	91%	2,913	113%	4,852	105%
製造会社	ナガセケムテックス	26,161	112%	3,225	344%	1,783	335%
	東拓工業	7,162	97%	395	152%	279	440%
販売会社	ナガセプラスチック	15,453	106%	113	388%	52	372%
	長瀬カラーケミカル	12,959	95%	140	96%	83	92%
	ナガセケミカル	12,961	98%	188	112%	100	104%
海外	長瀬香港有限公司	57,231	71%	1,215	79%	978	80%
	ナガセシンガポール	22,724	70%	238	61%	277	72%
	ナガセタイランド	20,518	62%	650	61%	474	65%

企業体質の一層の充実強化と収益力向上を図りながら、将来の成長に向けた中長期的な資金需要を勘案しつつ、安定的な配当の継続に努めることを基本方針としております。



注:04/3期は、記念配当1円、07/3期は記念配当2円を含みます。

2011年3月期業績見通し

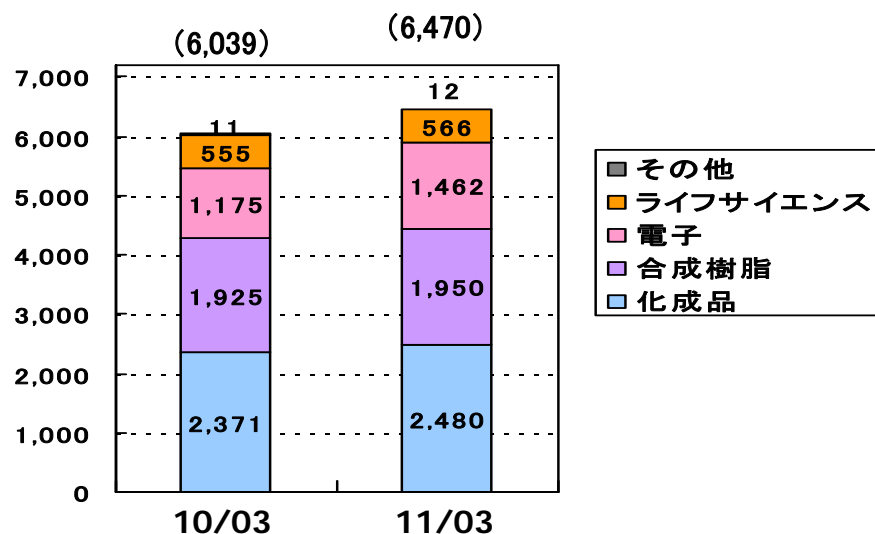
(単位:億円)

	11/03 予想	10/03 実績	増減	前期比
売上高	6,470	6,039	+430	107%
売上総利益	698	654	+43	107%
営業利益	150	131	+18	114%
経常利益	162	147	+14	110%
当期純利益	95	75	+19	126%
1株当たり当期純利益	73円90銭	58円64銭	—	—

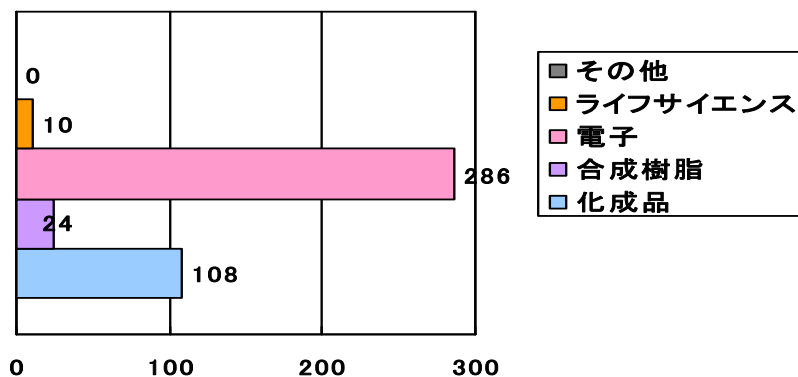
※想定ナフサ価格:45,000円

※想定為替:1USD=90円

(単位:億円)



売上高のセグメント別増減内訳



6,470億円 430億円増加 前期比107%

化成品 2,480億円 +108億円(105%)

■中国華南地区での印刷関連ビジネスは減少するが、中国を中心とする需要回復および日本経済の緩やかな回復等により、売上高2,480億円(105%)を見込む

合成樹脂 1,950億円 +24億円(101%)

■国内での販売が減少するものの、北東アジア等での自動車などの需要回復により、売上高1,950億円(101%)を見込む。

電子 1,460億円 +286億円(124%)

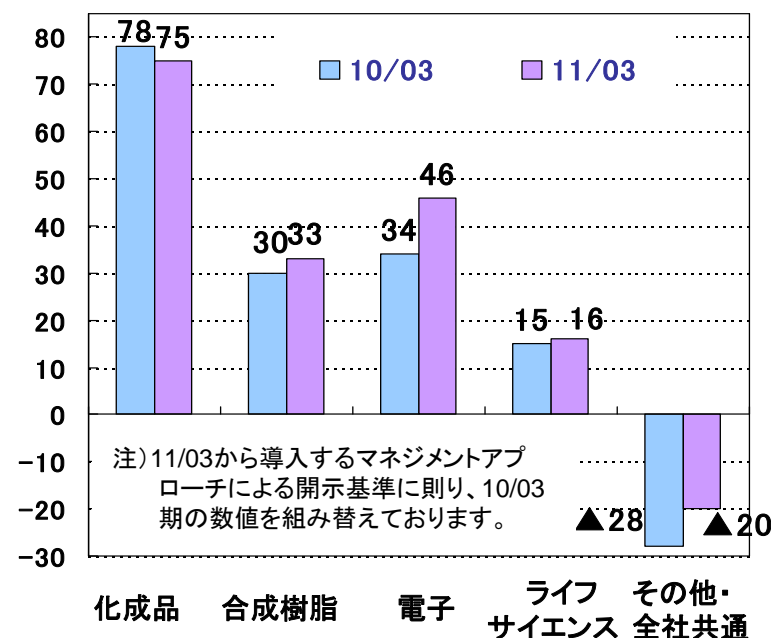
■液晶関連業界での需要増加に対応した国内外での製造機能・拠点の充実により、売上高1,460億円(124%)を見込む。

ライフサイエンス 566億円 +10億円(102%)

■引き続き自社グループ製品の開発・拡販に注力することで、売上高566億円(102%)を見込む。

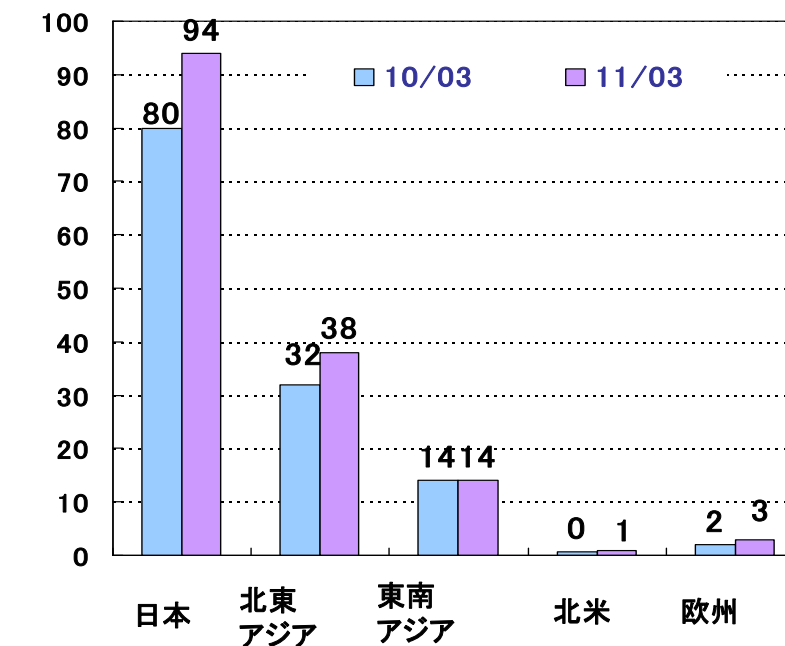
150億円 18億円増加 前期比114%

(億円) <セグメント別 営業利益>



- 化成品は、中国の印刷関連ビジネスの減少や北米が回復遅れから、3億円(前期比96%)の減益
- 合成樹脂は、中国・北米の需要回復による自動車関連・OA機器関連の販売回復を見込み、2億円(同:108%)の増益
- 電子は、単体および中国での増益などを見込み、11億円(同:132%)の増益
- ライフサイエンスは、北米での赤字幅縮小などを見込み、1億円(同:101%)の増益

(億円) <所在地別 営業利益>



- 日本国内は単体が全事業セグメントで増益基調。
- 北東アジアは自動車・OA機器関連(合成樹脂)の回復等で増益
- 東南アジアは横ばい
- 北米は電子・ライフサイエンスでの黒字転換・赤字縮小などにより増益
- 欧州は総じて回復基調により、増益

中期経営計画「*CHANGE* 11」進捗

経営理念

社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に寄与する

将来の目指す姿

（顧客に対して）

市場構造・環境の変化を先取りし、
独自のソリューションを提案すること
で顧客とともに発展する企業

（社員に対して）

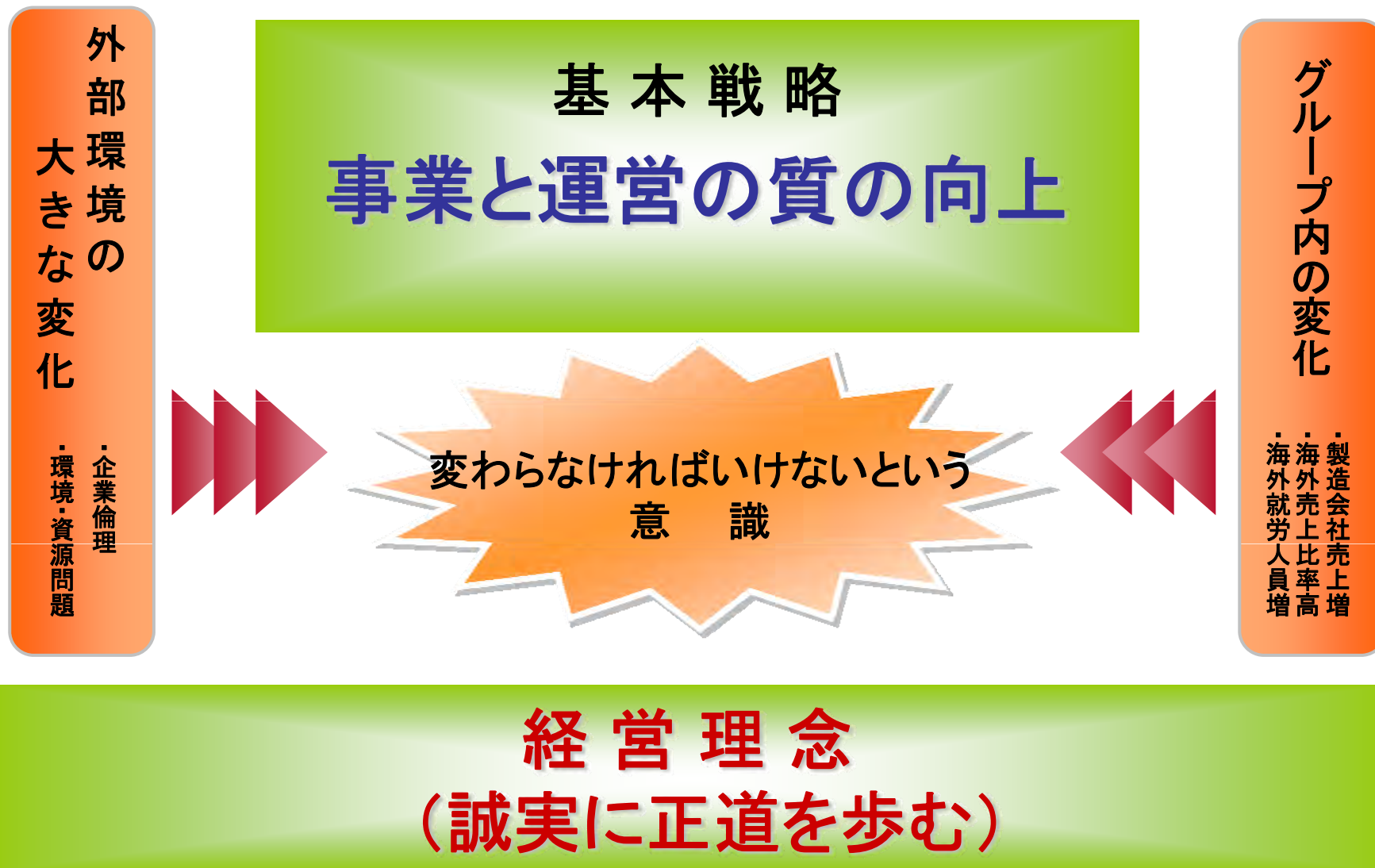
事業を通じて、夢と理想を
実現する場を提供する企業

（株主・投資家に対して）

技術を基盤として、強みを活かした
事業を中心に成長し価値を
高め続ける企業

（社会に対して）

社会に貢献し、地球環境に
寄与する企業



- 1 事業の選択と集中
- 2 環境・エネルギー関連技術の取り組み
- 3 研究・開発・製造機能の強化
- 4 グローバル化の推進
- 5 リスクマネジメントの強化
- 6 ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

1 事業の選択と集中

- 電池関連での全社横断的なプロジェクトの推進
- 木質複合素材事業、自動車金型事業、コネクター成型事業 からの撤退
- カラーフォーマー製造会社への資本参加（カラーフォーマー事業競争力強化）

2 環境・エネルギー関連技術の取り組み

- リチウムバッテリーモジュール開発企業の買収
- シャープ堺工場リサイクルビジネス 改正産業活力法認定取得

3 研究・開発・製造機能の強化

- 有機肥料を製造・販売する川合肥料(株)の100%子会社化
- インド医薬中間体製造企業への資本参加
- 環境対応型エポキシ樹脂の開発

4 グローバル化の推進

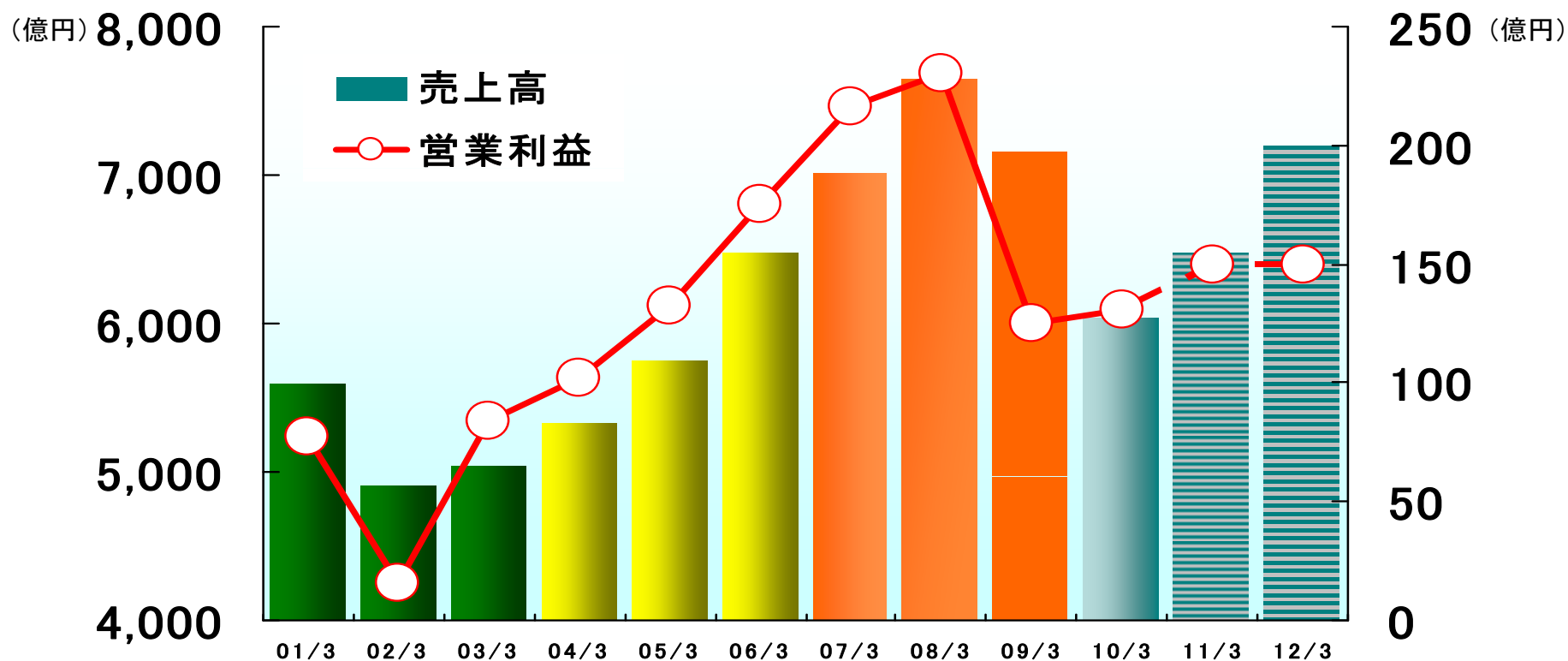
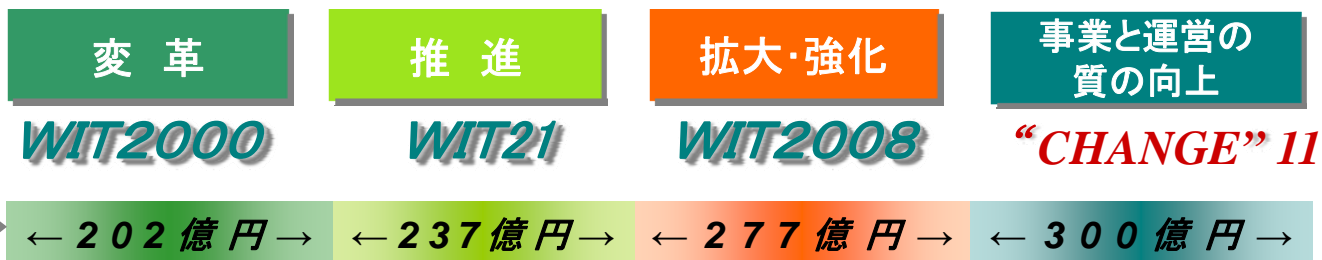
- メキシコ現地法人設立の決定
- インドでの自動車関連新規ビジネスの開始
- ペトロラービグへの樹脂添加剤ビジネススタート
- ベトナム現地法人ビジネスライセンス拡大

5 リスクマネジメントの強化

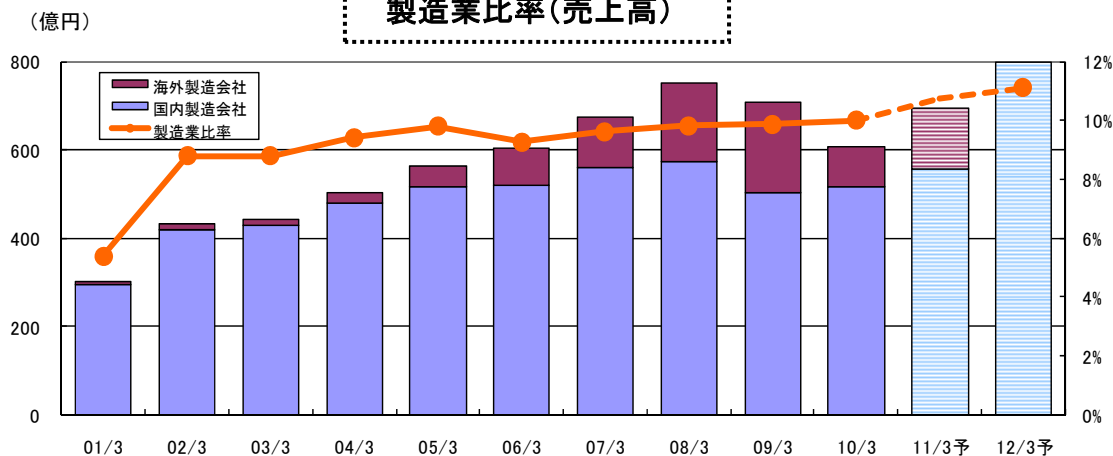
- ITのBCP(事業継続計画)の一環として社内サーバーの外部データセンターへの移設開始
- 外為法改正(規制強化)に向けて社内ルールの策定

6 ダイバーシティの推進とワークライフバランスの支援

- 月2回のノー残業デーの導入
- 男性社員も育児休業取得の対象に



製造業比率(売上高)



投資計画(3年間)

300億円

環境・エネルギーを中心とした新規投資

200億円

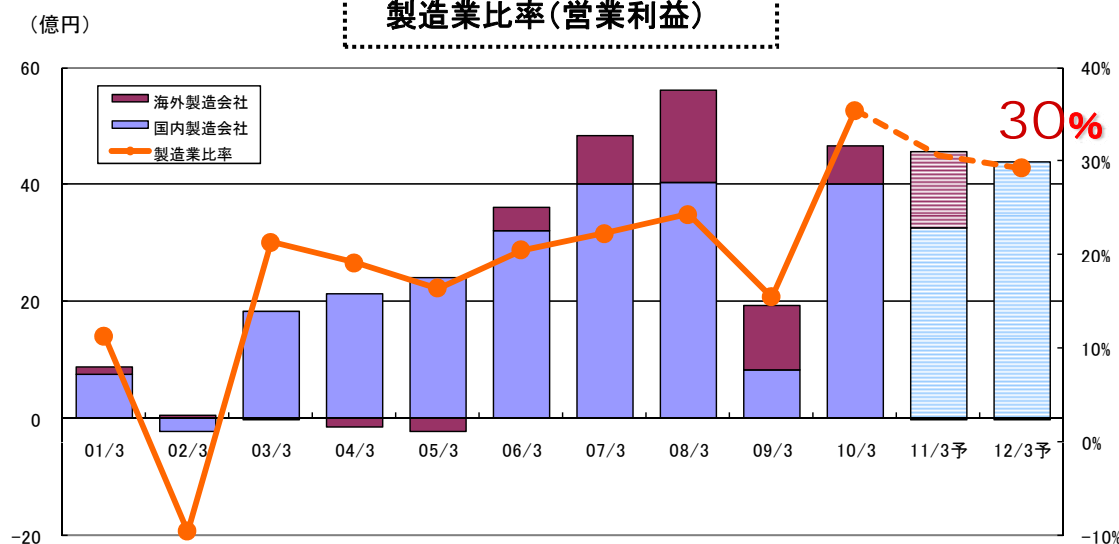
既存設備更新

100億円

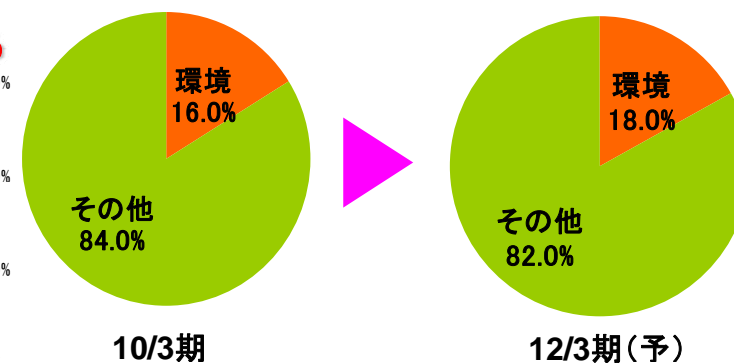
10/3実績

107億円

製造業比率(営業利益)



環境・エネルギー関連売上高比率



ナガセアプリケーションワークショップ の取組み

ナガセアプリケーションワークショップ
所長 木村 雅哉



外観



ショールーム/ミーティングスペース



評価・解析室



樹脂実験室



コーティング実験室



繊維加工実験室

■当社グループの強み：【情報】×【研究開発】×【製造機能】の三位一体力



■ナガセR&Dセンター

開所1990年4月 研究員約50人

グループの将来事業を先導する
基盤技術開発とライフサイエンス
関連の研究を担当

■ナガセアプリケーションワークショップ

開設2007年7月 従業員15人

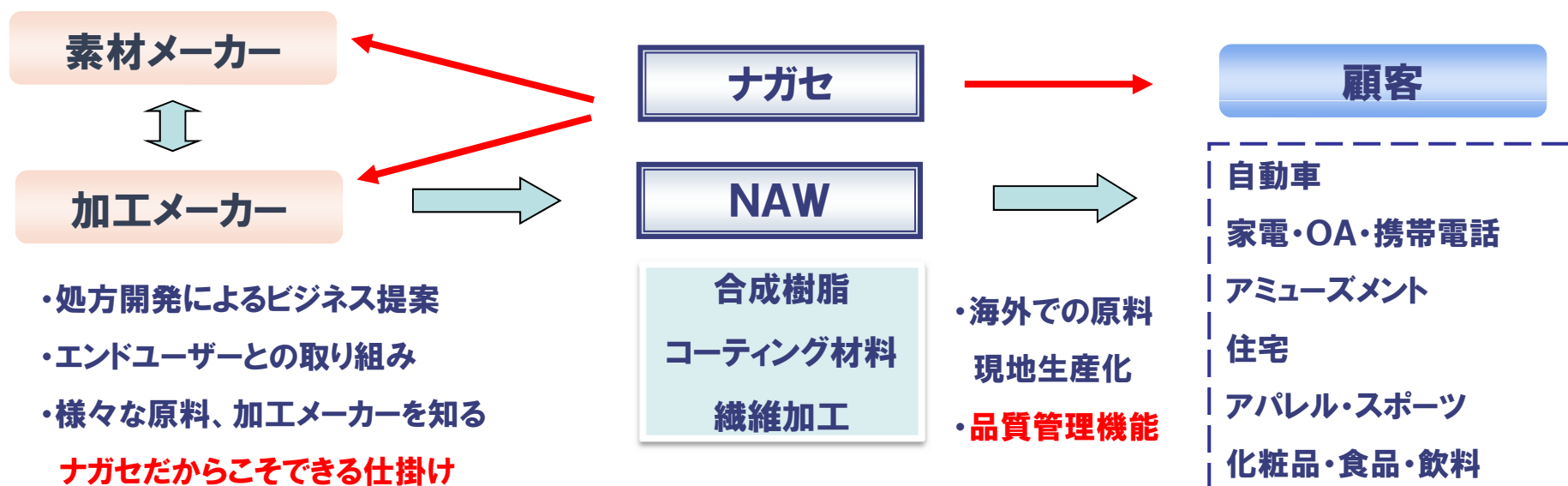
営業部が企画した取引先とのビジネス
を前提とした個別技術検討案件の
ソリューション提供を担当

概要

- 取引先とともに合成樹脂、コーティング材料、繊維加工に関連した素材、添加剤などの機能・効能評価から用途開発を行う
- 「色」に関する提案、評価、研究
- NAWは高付加価値化戦略を担う重要拠点であり、化学系商社では当社独自の機能

目的

- 従来の「素材探索」型営業から「用途提案」「共同開発」型営業への転換の推進
- 顧客の共有化による、事業部の垣根を超えた事業展開の促進





合成樹脂

- 配合処方設計
- コンパウンド試作
- 物性評価

【設備】

- ・2軸押出機
- ・加熱ロール
- ・射出成型機
- ・ヘンシェルミキサー



コーティング材料

- 塗料・インキ配合設計
- 塗料・インキ試作
- 物性評価

【設備】

- ・乾式塗装ブース2機
- ・分散機
- ・UV照射機



繊維加工

- 各種繊維素材に適した染色配合設計
- 染色試験
- 物性評価

【設備】

- ・ミニカラー染色機
- ・振トウ式染色機
- ・捺染用スクリーン

【共通設備】

- ・耐光性試験機
- ・機械的物性試験機
- ・熱的特性試験機
- ・電気的特性試験機
- ・その他分析器

【各室人員】

メーカーでの開発技術経験のあるスタッフを、各室数名配置

■07年7月以来の活動案件数

	2007	2008	2009
顧客 訪問者数	86社	138社	159社
合成樹脂	30件	51件	39件
コーティング材料	13件	12件	17件
繊維加工	15件	22件	24件

■今までに共同開発や技術サポートを手掛けた主な顧客層と主要テーマ

自動車メーカー及びTier1サプライヤー	樹脂開発、特殊塗料輸入
家電、OA、プリンター、ゲーム機メーカー	カラーデザイン開発、樹脂開発
海外化学大手メーカー	輸入原料販売

合成樹脂

- CNTを主とした導電樹脂開発
- LED照明用PC樹脂処方開発
- 自動車用PP材料開発など

コーティング材料

- 感熱紙用塗工材開発
- 塗料原料の新規輸出商権獲得
- 塗料の新規輸入開始など

繊維加工

- デジタル捺染分野への技術開発
- 新合繊対応の独自品開発
- 自動車内装用染料の開発

中期売上目標

14億円

10億円

10億円

【重点領域】

環境対応材料開発(樹脂分野)

環境対応材料開発(コーティング分野)

次世代型染色システム開発

ニッチ分野での高機能性樹脂開発

カラーデザインマーケティングの実施

【テーマ事例】

リサイクル、バイオ材料

脱石化

デジタルプリント

高熱伝導、放熱、導電

新加飾技術

知恵をビジネスにする技術・情報企業

長瀬産業株式会社

<http://www.nagase.co.jp>

当プレゼンテーション資料には、2010年5月21日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。